

国際平和拠点ひろしま構想

人類初の原子爆弾による破壊から復興した広島県が、核兵器廃絶のプロセスや復興・平和構築などの課題について、国際平和実現のための取組や広島が果たすべき役割を、「国際平和拠点ひろしま構想」として取りまとめた。

国際平和拠点ひろしま構想は、湯崎知事が提唱する「国際平和のための3×3アプローチ」をもとに、世界の賢人の協力を得て、策定された。

【国際平和のための3×3アプローチ】

3つの課題 (Challenges)	3つの行動 (Actions)
● 核兵器廃絶	● 平和のための理論構築・研究集積
● 復興・平和構築	● 人材育成と研究活動を通じた平和創造・構築活動の支援
● 新たな安全保障体制の構築	● 創造的なアイデアの創出とメッセージの発信

国際平和拠点ひろしま構想 “Hiroshima for Global Peace” Plan

核軍縮、紛争解決及び紛争後の復興へのさらなる貢献

「国際平和拠点ひろしま構想」策定委員会委員名簿

(1) 策定委員会(委員8名)

(敬称略,50音順)

氏名	経歴等
明石 康 (あかし・やすし)	元国連事務次長(広報・軍縮,人道問題担当)(財)国際文化会館理事長
阿部 信泰 (あべ・のぶやす)	元国連事務次長(軍縮担当)(財)日本国際問題研究所軍縮・不拡散センター所長
川口 順子 (かわぐち・よこ)	元外務大臣 参議院議員
ギャレス・エバンス	元豪州外務大臣 オーストラリア国立大学学長
ジョン・アイケンベリー	プリンストン大学教授(米国)
スコット・セーガン	スタンフォード大学教授(米国)
藤原 帰一 (ふじわら・きいち)	東京大学大学院法学政治学研究科教授
湯崎 英彦 (ゆざき・ひでこ)	広島県知事

は座長

(2) タスクフォース

1) タスクフォース(委員8名)

(敬称略,50音順)

氏名	経歴等
秋山 信将 (あきやま・のぶまさ)	一橋大学国際・公共政策大学院准教授
阿部 信泰 (あべ・のぶやす)	(策定委員会委員)
上杉 勇司 (うえすぎ・ゆうじ)	広島大学大学院国際協力研究科准教授
佐渡 紀子 (さど・のりこ)	広島修道大学法学部准教授
ジョン・アイケンベリー	(策定委員会委員)
スコット・セーガン	(策定委員会委員)
藤原 帰一 (ふじわら・きいち)	(策定委員会委員)
水本 和実 (みずもと・かずみ)	広島市立大学広島平和研究所副所長

はチームリーダー

2) アドバイザー

(敬称略,50音順)

氏名	経歴等
アレクサンダー・メヒヤ	国連訓練調査研究所(ユニタール)広島事務所所長
西宮 宜昭 (にしみや・のりあき)	(独法)国際協力機構中国国際センター所長
ナスリーン・アジミ	国連訓練調査研究所(ユニタール)本部長付特別上級顧問

事務局：広島県(国際課)が(財)日本国際問題研究所の全面的な協力を得て担当する。



国際平和拠点ひろしま構想の骨子

1

課題設定

なぜ広島なのか

平和の象徴としての広島
 廃墟から復興し、平和の街へ生まれ変わった広島は、核のない世界の象徴であるだけでなく、国家間の戦争・内戦などに苦しむ地域における平和達成の象徴でもある。

核兵器廃絶と平和構築
 広島が核兵器のない未来と暴力的紛争に苦しむ地域における平和構築の両方を提案する場となるべき。

なぜ今なのか

核拡散の危機の高まり
 核軍縮に向けた機運の高まり、オバマ大統領のプラハ演説等、一方で、特に東アジア等において、核拡散の危機が高まっている。

3つの課題

核軍縮の多国間プロセスの開始
 包括的な核軍縮が求められる中で、米露の二国間を中心とした交渉から、より多くの国家が関わる、核軍縮の多国間プロセスを開始することが必要。

地域紛争での核兵器依存の低減
 地域紛争に目を向け、地域紛争での核兵器への依存度を低くしていくことが必要。

平和構築の取組の必要性
 広島は、破壊と復興の経験を生かして、紛争後の社会の平和構築に役立たせるべきであり、その場合、信頼構築、能力開発、長期的な財政支援の必要性に留意すべき。

2

行動計画

(1) 軍縮に向けた提案

核軍縮と核不拡散の推進
 米露以外の核保有国の積極的な関与による核軍縮を目指した多国間プロセスの実施に向け、非核兵器国の積極的な関与、さらには、地方自治体、NGOの関与が必要。

核兵器依存の低減
 核軍縮のため、核兵器への依存度を下げるよう、潜在的な対立関係にある国家間の信頼醸成のプロセスが必要。特に、アジア太平洋地域における取組が重要。

国際的メカニズムの強化
 紛争処理に関する外交交渉には、核軍備管理・核不拡散に関わる国際組織も参画すべきであり、アジア地域での取組の強化が必要。

(2) 広島からの平和の推進

国際平和拠点として広島が果たすべき5つの役割を次ページのとおり提案。

国際平和拠点としての広島の役割

核兵器廃絶のロードマップへの支援

- 核兵器廃絶のための継続的かつ具体的なプロセスの推進への貢献をめざすべき。
- (1) 政府間交渉を視野に入れ、多国間軍縮プロセスの開始に向けたラウンドテーブル（高官等が個人資格で参加するトラック）の広島開催の提案と支援
 - (2) NPT運用検討会議の最終文書や、核不拡散・核軍縮に関する国際委員会(ICNND)の報告書等に基づく、スコアカード等による評価や採点 など

核テロの脅威の削減

- 核テロの危険性が継続する中、広島の経験を生かし、ラウンドテーブルを開催するとともに人材育成事業を実施すべき。
- (1) 紛争社会での平和構築と核テロの動機となる要因の削減
 - (2) 厳しい核物質の安全管理基準の設定や民生用核物質の最善の管理方法の普及
 - (3) 核テロの影響の抑制策の開発・普及や復興力を備えた社会の育成

平和な国際社会構築のための人材育成

- 広範な実践的プログラムを通じて、核兵器のない平和な世界を生み出し、紛争後の復興を達成するため人材育成を目指すべき。
- (1) 紛争解決、平和構築、紛争予防の専門人材育成プログラムの提供能力の拡大
 - (2) 情報共有やさらなる人材育成の機会の提供のための関係機関や専門家のネットワークの構築
 - (3) 将来の取組や教育、研修のための現場活動における実践や成果の蓄積 など

核軍縮、紛争解決、平和構築のための研究集積

- 核軍縮、紛争解決、平和構築に向けたアイデアを創造するため、広島は、知識と英知の集積拠点を目指すべき。
- (1) 大学や研究機関における平和に関する様々な研究の促進
 - (2) 蓄積された専門知識の効果的な活用についての検証
 - (3) 海外からの研究者や専門家の招聘のための体制整備 など

持続可能な平和支援メカニズムの構築

- 国際平和拠点の広島は、長期にわたる持続可能な支援メカニズムを構築する必要がある。このため、広島の財政的負担のみに依存することは望ましくない。
- 世界中から、人や知識や資金的な投資などの資源を引き込み、集め、つなぐことにより、平和のための新たな活動が生み出される支援拠点となるべき。
- また、広島県と広島市が、それぞれの強みと個性を生かして、一体のコミュニティとして難問に取り組む必要がある。
- (1) 平和に関連する総合的な研究の振興
 - (2) NGOや行政関係者、民間企業経験者、研究者による対話の場の提供
 - (3) 持続的な取組のためのニーズとシーズの総合調整機能の構築 など

